

みどりの食料システム戦略(令和3年5月策定 農林水産省)

～持続可能な食料システムの構築に向け、2050年までに目指す姿が掲げられました～

▶主な取り組み

- ・農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現
- ・低リスク農薬への転換、総合的な病害虫管理体系の確立・普及に加え、ネオニコチノイド系を含む従来の殺虫剤に代わる新規農薬などの開発により化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減
- ・輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減
- ・耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%（100万ha）に拡大

幕別町の 取り組み

近年、地球温暖化の影響やSDGs（持続可能な開発目標）など環境への意識の高まりを受けて、農業分野においても、有機栽培など環境に配慮した取り組みを行う農業者が全国的に増えてきています。また、こうした有機農産物や減農薬など環境に配慮した商品を選んで購入する消費者も徐々に多くなっています。

幕別町では、環境に配慮した持続可能な農業を推進するため、次の事業に取り組んでいます。

▶環境保全型農業直接支援対策事業

化学肥料や化学合成農薬を5割以上低減する取り組みと合わせて、有機農業や緑肥の作付けなど、環境保全に効果の高い営農活動に取り組む農業者団体に対し、取組面積に応じて助成します。

▶ふるさと土づくり支援事業

土地の生産性向上と農業経営の安定化を図るため、町内各農業協同組合と一体となって堆肥の切り返し作業や堆肥の購入、緑肥種子購入経費の一部を助成します。

平成18年12月8日に「有機農業の推進に関する法律」が成立しました。平成28年、その10周年目を記念して12月8日を「有機農業の日」として制定し、毎年、有機農業の普及に関する取り組みが全国各地で行われています。

町内には有機農業という農薬や化学肥料に頼らない農業を実践する生産者がいます。

今回、SDGsの活動に取り組んでいる幕別清陵高校の生徒のみなさんと一緒に、有機農業に取り組む小笠原農園取材してきました！

12月8日は
有機農業の日



【小笠原農園(小笠原保代表)】

有機栽培とは化学肥料や化学合成農薬に頼らず、自然にある有機物や土壌内にいる微生物を活かした「循環」を意識した作物づくりで、畑(土)への負荷をできる限り低減した農業生産方法です。

これからの未来を担う子どもたちのために、自然環境を守り、持続可能な農業を目指しています。

幕別清陵高校の生徒のみなさんの感想

有機栽培について知ることで、身の回りの食の安全性について考えるきっかけになりました。

単に化学肥料を使わないということだけでなく、土づくりの大変さや自然保護の観点もあることを学び、その影響で収穫量が少なく、労力がかかり、コストが高くなることを知りました。

それでも健康のことや自然のことを考えてくれている生産者さんの想いを聞き、私たち消費者ももっと色々なことを知らなければいけないと感じたし、有機野菜を手にとることで、有機栽培に取り組んでいる生産者さんを応援することができるのではと感じました。

